会 議 録

会議の名称	令和４年度第３回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和５年２月９日（木） 13:30～15:30	開催場所	那珂川市役所 第２別館２階 会議室
出 席 者	１．委員 長津委員、田北委員、須川委員、簑原委員、柴田委員、関岡委員 （欠席）森委員、鳥部委員 ２．執行機関（事務局） 吉岡文化振興課長、藏薗文化振興課文化振興担当係長、福田文化振興課文化振興担当主任主事 ３．その他 株式会社地域計画建築研究所（コンサルタント）２名		
配布資料	資料１　市民アンケート調査結果 資料２　関係団体ヒアリング調査結果 資料３ ディスカッションペーパー（那珂川市の文化芸術振興の現状と課題） 資料４　子どもアンケート調査計画・調査票 資料５　今後のスケジュール		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 （理由：情報公開条例第９条第１項第２号及び第３号に該当）		

議題及び審議の内容

１．第２回審議会の振り返り

２．調査報告（株式会社地域計画建築研究所より説明）

（１）市民アンケート調査報告（資料１）

【質疑応答】

［委　員］：回答率の 26.6％は多いのか、少ないのか。

［事務局］：１頁に回収結果として、回収率 26.6％とある。参考として、毎年実施している住民意識アンケートの回答率と比べると回答率は低い。

［委　員］：18 歳未満の子どもの同居の有無を聞いているが、まとめの資料では「同居」という言葉が抜けており、子どもの有無となっているので、それを加えた方が正確である。通常、このような質問を設けるのか。同居する家族で 18 未満となるとカテゴリーとしては幅広い。例えば、多世代で同居していて、普段子育てに関わっていないケースもある。この設問の意図としては、子育てをしているということを表したいのか。

［事務局］：株式会社地域計画建築研究所が実施する文化アンケートでは、この設問を入れることが多い。文化芸術の話をする時に出てくることとして、子育てをしている世代の方が、文化芸術施設に行ったり、文化芸術を見に行きにくいということはよく聞いており、アンケートを実施した際に

は、そのような結果がどのまちでも出てくる。那珂川市においても実態を把握するために本設問を入れ、クロス集計としても、ご提案している。

［委　員］: 31 頁、過去１年間に直接鑑賞した情報入手先について、私は新聞で把握することが多いが、新聞は選択肢に入っていないのか。

［事務局］: 入っていない。「その他」の選択肢があり、新聞の場合はそちらを選択されていると思う。

［委　員］: 配布した 3,000 名はどのように抽出したのか。

［事務局］: 18 歳以上の市民をランダム抽出した。

［委　員］: 単純集計の居住年数について、20 年以上が 6 割と多いのは特徴のように思うが、どうか。

［事務局］: 株式会社地域計画建築研究所が関わる文化アンケートでは、この設問を入れているが、同じような曲線を描いている。ただ、居住年数 20 年以上が 60%を超えているというのが特徴的かは確認できていない。今回は年齢が高い市民からの回答が多く、このため居住年数も 20 年以上が多くなっている。また、文化に限らずどの分野でも同様である。

［委　員］: 職業で働き先に市内か市外かは聞いていないのか。

［事務局］: 聞いていない。

［委　員］: 回答者の年代について、人口比と比べるとどうか。人口比と同様なのか、高齢者が多いのか。

［事務局］: 人口比率と比べても高齢の方が多い比率になっているかと思う。

［委　員］: 4 頁のグラフについて、人口比を入れているのではなく、アンケート結果の構成比ということで良いか。

［事務局］: その通りである。

（２）関係団体ヒアリング調査報告（資料２）

【質疑応答】

［委　員］: どのカテゴリーでも、最後に那珂川市の文化芸術政策について尋ねられているが、質問と回答が合っていないように思う。行政の要望のようになるのはそうだと思うが、この審議会でこれから文化芸術推進のための計画を作っていくにあたって参考になるコメントがあると良い。このような観点で見た場合に、どういう質問をされたのか、また、個別のこういう部署をつくってほしい、歴史を活かそうなど、もう少し大局的な意見はなかったか。

［事務局］: 市に対して「こういうことをしてほしい」という意見はほとんどなく、歴史を活かすという話では観光課を作って欲しいという意見はあった。また、情報発信については、各団体では情報発信をする余力がない中で、市又は中間支援団体に支援してほしいとの意見はあった。その他、人材の育成・後継者については、ある団体の方は別府市の取組を紹介されて、市が継承の支援をして欲しいという意見もあった。ヒアリングの中では、ある団体で活動していた方が別の団体を立ち上げて今までされてき

たことを継承されているとの話も聞かれた。

［委　員］：最後に話した内容はどこに載っているのか。

［事務局］：３頁に記載している。那珂川市の文化芸術政策に期待することについて、質問としてはこのような問いで実施した。どの団体も自団体以外の話は難しい状況で「全体と言われても…」といったところで、自団体として取り組んでほしいことをお話いただいた。今回の資料は、個別団体の意見を見せたいわけではなく、また公開資料となるため、このような取りまとめをしたが、そのためにわかりにくい、見えにくいところがあると思う。個別の要望の中で総じて出てきた話としては、情報発信・PR の方法がわからないということである。活動自体は楽しんでやられており、充実しており、満足しているが、多くの方に届いていない。もっと伝われば、後継者や、チームに入ってもらったり、公演に来てもらえたりするが、それをどのように届けるかわからない。もう１つは、施設面で場所の確保である。練習場所や公演場所について、公共施設の活用方法が複雑でわかりにくかったり、公共施設以外でも市内にどのような施設があるかわからなかったりする。わかっている方も、中小規模の発表の場が少ないというのが全体的なご意見であった。

［委　員］：団体名を出すと話しづらくなるだろうが、ジャンルごとに「このようなことを考えている」というのがわかると、もう少し見えてくる所があるかもしれない。例えば、音楽系、美術系など、まちづくりと文化施設では話す内容が異なるように思い、個人的に関心がある。

３．那珂川市の文化芸術振興の現状と課題　事務局案（資料３）

【質疑応答】

［委　員］：個別のことではなく、先程のアンケートでは満足度の話があった。資料 1 の 42 頁に文化芸術に関する環境についての満足度で、文化芸術活動をしている人ほど、満足あるいは不満のどちらかに振れているとの説明があり、「そうだろう」と思ったところである。その中で、「わからない」が多いことが気になっている。わからないが多いのはどういうことかを考えた場合に、「文化芸術のことがわからない」ということではないか。そのような人が、これだけの人数、割合いるということに対してのアプローチが抜け落ちているのではないか。具体的には E の情報発信の所になってくるかと思う。広報紙やミリカディアは全戸配布されているが、多くの方は読んでいないかもしれない。また、口コミが参加するキッカケとして多いが、それは既に文化芸術に接している人が知り合いにいる人であろうから、わからない人ではないだろう。「SNS の活用が重要となっている」とあるので、ヒアリング結果を見ると、「大事ではあるが、使い方がわからない」とあり、これもあまり効果的にやれている感じではない。そのような状況の中で、わからない人たちに何をしていくか、「文化芸術に関わると面白い」ということをもっと様々な人に伝えるはどう

したらよいかは、計画の中に入っておく必要がある。同様に 43 頁のボランティア活動についても同様である。95%が活動もしていないし、不明・無回答も 25%で、これもピンと来ていないのだろう。文化芸術の担い手はアーティストに限らず、文化イベントをワイワイ盛り上げるようなまちづくりみたいな人も含めて、もっといた方がよい。その意味で「担い手を育む」や「芸術家の支援」はあるが、それ以外の担い手育成の視点はあった方が良いのではないか。

［委　員］：多様性という言葉が必要ではないか。M の中に社会的包摂とあるが、障害の方だけではない。関連の言葉は C の所に幾つかあるが、LGBTQ の方などもいる。

［委　員］：M の所は、国や県も障がい者の文化芸術活動を第一に推しているため、それを踏襲する必要はあるだろう。ただ、国の議論でも、障がい者についてもずっと障がい者のことだけをして良いのだろうかという議論はある。色々な方を対象にという議論は国でもされている。那珂川市の実情を考えると、障がい者もいれば高齢者もいるし、LGBTQ の方もいる。福岡県でもパートナーシップ条例が始まっている。幅広い視野で捉えていく必要があると思う。

［委　員］：私も同意見である。アンケートで回答のあった方を基本に、また事務局として網羅的に設定しているだろうが、社会的包摂について見出しで障がい者に限定されている。これまで議論に出なかったが、外国にルーツのある方や、アンケートを回答できる人という制限がある時点である程度のマジョリティ側の回答と捉えた方が良い。

［事務局］：これまで頂戴した意見について、事務局としての考え方を回答したい。「わからない」人へのアプローチはおっしゃる通りである。前提として、委員がおっしゃったように、今はアンケートやヒアリングで出たニーズを中心に吸い上げているが、市民ニーズがなくても取り組まなければならないこともある。「わからない」と回答した人が多いが、文化芸術に関心がないのか、それとも敷居が高いと感じられて自分には関わりがないと思っているのか、そこのハードルを下げてもらうアプローチは必要だと感じた。多様性については、M は障がい者文化芸術推進法を意識した内容になっている。パートナーシップ制度は那珂川市でも始まっており、那珂川市の福祉の方向性と足並みを揃えて、この分野を整理した方が良いと思っている。

［委　員］：文化芸術のアクセシビリティについて、C や M で触れており、C や M がどのような接点を持つのかを踏まえた判断、そこを意識した構造になってくるかと思う。

［委　員］：C はアクセシビリティだが、M はそれ以前の入口、知るためのアクセス、文化芸術活動が自分たちも関係があるんだと思えてはじめてアクセシビリティが機能するところがあると思う。「文化芸術活動が自分たちのものでもあるんだ」ということは、「この社会は自分たちもいて良い社会

なんだ」という議論と似ている。そのような観点で言うと、他分野というのは障害だけではなく、自分たちも関係があるんだ、ということがMに入ってくると良いだろう。その先に具体的に文化芸術活動・鑑賞に参加したり、活動したりする時に障壁がある場合に、その障壁をどう取り払うかを考えるのがCだろう。

［事務局］：今の認識として、C と M をどういう棲み分けをしているかというと、Cは、例えば文化芸術活動に仕事や子育てで忙しくていけないという場合に、文化芸術活動の事業や工夫をすることで解消できること。会場や開催時間、内容、仕組などを変更することで解消できること。一方、Mは、それだけでなく例えば、経済的に困窮しているだとか、それ以外の要因で、より複合的な課題があり、それを解決する手段として文化芸術活動をどう取り入れるかということで分けている。

［委　員］：委員が先ほどおっしゃったように、「ここに居て良い」という存在、文化芸術にアクセスして鑑賞できることより踏み込んだイメージである。ウェルビーイングや社会的処方は何処かに出てくるか。

［委　員］：Lに入っているのではないか。

［委　員］：他にICTやAI、情報関連技術も重要になる。Cのアクセシビリティには、そのような技術も入ってくるだろう。一方で、Mは質が異なる。複合的という訳では無い。もっと文化芸術活動が波及していく、その人の存在そのものに関わっていくというイメージがある。

［委　員］：Mについて他分野への波及といっているが、本来は根幹に据えるべきではないか。整理し直したほうが良い。

［委　員］：Mは障がい者文化芸術推進法を意識した所だと思う。C、L、Mも咀嚼し直す必要がある。

［委　員］：K、L、Mは、文化振興課だけでは取り組めない政策が書いてあると思う。AからEについては、基本的には文化振興課や、ミリカローデンと協働で取り組める内容である。その他、社会教育や障がい者福祉、高齢者福祉の部署と協働することを念頭に置いた整理も１つ選択肢としてある。そのように考えると、Mは、障がい者だけを強調していることが気になっている。

４．その他

・子どもアンケート調査について（資料４）（文化振興課より報告）

【質疑応答】

［委　員］：調査票を見ながらタブレットで回答することになるのか。

［事務局］：調査票の内容をGoogleフォームに落とし込んで、Googleフォーム上で回答してもらう。

［委　員］：3頁以降が分かりにくいのではないか。

［事務局］：WEB上では表現を変える。四角にチェックを入れていく形になる。

［委　員］：2頁の一番上の説明文について、鑑賞系の言葉が入っていない。最初の問いはどうも鑑賞のことのように見える。鑑賞系の言葉を入れてはどう

か。Google フォームを使うということだが、ルビはどうするか。
［事務局］：ルビは漢字の後ろに括弧書きでひらがなを入れる。
［委　員］：ルビのルールはあるか。
［事務局］：基本的には小学５年生が習う常用漢字以外のもの、その他、読み方が難しいものに付けたい。
［委　員］：神楽が気になった。
［委　員］：誰か委員に事前確認されたのか。
［事務局］：学校関係については、個別に委員に相談をさせてもらっている。神楽については、既にルビ付けをしている。
［委　員］：タブレットの回答であれば、不登校の児童・生徒にも回答してもらえるのか。
［事務局］：今の回答の方法としては、学校内の時間でということで調整している。
［委　員］：那珂川市にはフリースクールはあるのか。
［事務局］：市内にはない。
［委　員］：シュタイナー学校はあるだろう。昔と比べても、正規の学校に通えていない子どもが増えている印象がある。そのような子どもも回答できるようにして欲しい。
［事務局］：　教育委員会、学校側と相談したい。

・今後の進め方（資料５）（文化振興課より報告）
【質疑なし】

【会　長】：以上をもって第３回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。